

定時制の灯を守ろう！

NO.98 2008・9・16

# 守る会NEWSLETTER

URL:<http://homepage3.nifty.com/save-teiji/>都立定時制高校を守る会・連絡会  
連絡会事務局発行

## 10月8日(水)、

# 都教委要請行動に参加を

昨年度の入試では、定時制の二次募集で不合格になる中学生が、一見減ったように見受けられました。取り下げ、再提出制度を取り入れたことも「功を奏した」のかもしれませんが。しかし、依然として二次募集でも入れない中学生がいました。ほとんどの夜間定時制は定員めいっぱい、またはオーバーの状態が続き、現場は大変な苦勞を強いられています。

現在、日本の格差拡大や貧困層の増大が問題となり、その克服が社会的な課題となっています。そういう中で、教育条件を整備し、困難を抱えた生徒達が安心して学べる場を保障することこそ行政の責任です。以下の要領で要請行動を行います。ぜひ参加してください。なお、詳しい要請項目は右にあります。お読み下さい。

日時:10月8日(水) 10時半～12時

(10時15分に第二庁舎一階ロビーに集合してください)

場所:第二庁舎 31階26会議室

都側は、白木課長、高橋副参事、他2名ほど出席予定

### 「守る会」総会、成功裡に終わる～

去る、7月19日、守る会の総会が開かれました。最初に森代表の挨拶、その後執行部か

ら齊藤定時制部長が、三部制、広域通信制などに触れつつ、今後の取り組みについて報告しました。その後、都立大学・乾彰夫氏が、「格差社会の中の若者達と定時制教育の可能性」と題して講演。その中で、定時制高校を、①困難層をもっとも大きくカバーしている公的機関、②クラスが少人数であること、③“学校生活”があること、と規定。その可能性を縦横に語りました。20名を超える参加者が集い、意義のある総会となりました。代表、副代表に、引き続き森、寺川、後藤の各氏、事務局に亀山さん（工芸）、加藤さん（立川）を確認して終了しました。

## 都教委に対する要請項目

一、八王子拓真の高倍率は続いており、八王子地区での募集定数が希望者に対して絶対的に不足している事態は変わっていません。八王子地区における定時制の募集枠を拡大するなど、何らかの措置を講じてください。

一、08年度入試における不合格者の追跡調査を教育行政の責任で行ってください。

一、不登校生徒を対象とするチャレンジ高校は、例年数倍の倍率となっており、不合格の生徒が大量に出ています。これでは、「再チャレンジ」をめざす不登校生徒の必死の思いに答えることはできません。文部科学省が8月上旬に発表した学校基本調査でも、小、中ともに不登校の生徒が増加していることが示されています。不登校の生徒に対する抜本的な対応策を求めます。また、今でも不登校の生徒を受け入れている夜間定時制の積極的役割が、都民には十分に知らされていません。以前都教委は、夜間定時制のもつ役割を都民に向けて大きくPRしてきた時期があります。それを再開し、夜間定時制の意義を、都民に十分徹底する方策を早急に講じてください。

一、今年度から、武蔵定時制が荻窪高校に「移転」という形になりました。それに伴って、学校を辞めざるをえない生徒が出なかったかどうか、また移転に伴う問題点をどう把握しているのかを明らかにしてください。

一、夜間定時制を大規模に統廃合してきた「改革推進計画」をはじめとする諸政策に関して、都教委としての現時点での評価と総括を明らかにしてください。

一、現在、多くの私立の「広域通信制」が東京に進出しています。何校の「広域通信制」が進出しているのか、都内在住者でこれらの学校にどの程度の人数が在籍しているのか、把握している限りで明らかにしてください。

一、定時制給食に関して、外部調理方式（デリバリー方式）が二年間の試行期間に入り、今年がその二年目です。来年度以降の本格実施をやめて、自校方式の給食に戻してください。

一、その他、定時制教育振興のための方策を一層充実させてください。

都立定時制高校を守る会・連絡 代表 森 光男

東京都教育委員会 教育長殿

## 「先生、私、給食食べられないの？」

(T定時制・K)

9月1日、2学期が始まった。その日も暑い日だった。私は一年生の担任。始業式が終わり、HRも終了した。おおかたの生徒が帰るか、またはクラブに行くかで、いなくなった頃、ある女子生徒が私に近づいてきて、財布を取り出し、そこから2万円を取って、「先生、これ・・・ありがとうございました」と私に渡した。

給食が予約制になり、さらに「前納制」が押しつけられ、給食費の「取り立て」が厳しくなって久しい。うちの定時制はまだ自校方式で給食を出しており、喫食率も高い方だが、我がクラスも数名給食を取ってない。予約が面倒、一食350円は高い・・・などの理由である。「一食350円でこれだけ良い食事が取れるんだよ」と説得しても、確かに一ヶ月分は7〜8000円になる。栄養面を気にしなければ、コンビニで安くあげられる、というのだろう。そして、現実には給食費の滞納が増えている。

8月も終わり頃、事務の方が私に「先生のクラスのAさんの保護者に、手紙を出しました。何回か滞納しているので、8月20日までにお金を持ってきてほしい、その日までに支払われなければ9月からの予約はキャンセルしますと伝えました」と言ってきた。「えっ？それでAさんは払ったんですか？」「何の連絡もないので、9月からは食べられないことに・・・」。その日はすでに8月27日。私はびっくりして、クラブで学校に来ていたAさんのところに飛んでいった。「あ、Aさん、20日まで給食費払ってほしいという手紙来た？」「ああ、来てみたいですが。でも、お母さんの給料日が25日なんで、20日までには払えないって・・・」「それで、まだ払ってないの？」「ええ、たぶん・・・。そうすると私、9月から給食が食べられないんですか？」。友達が集まってきて聞く。「Aさんどうしたの？」「えっ？給食が食べられなくなるの？」。ちょっとした騒ぎになった。

私は郵便局に走って行って2万円をおろした。それをすぐにAさんに渡して、「これをすぐ事務を持って行って払ってきなさい。貸してあげるから」と無理やり渡した。Aさんはちょっと困ったようだったが、私の指示に従った。払い終わった後、Aさんが言う。「すみませんでした。お金はお母さんからもらって、9月1日の始業式に返します。HRの時でいいですか？皆がいるところだと渡しにくいから、HRが終わって皆が帰ってからでいいですか」と。胸が痛んだ。

都は「食育」などといっている。一方で、給食を業者に丸投げする方式（デリバリー方式）の導入を狙っている。何を考えているのか。都が今なすべきことは、自校方式を復活させ、生徒が使いやすいシステムに戻し、補助金を増額させることである。

# 「若者の自立支援の現場から」 よこはま若者サポートステーション事務局

## 滝口 桂孝氏の話聞いて

主催 不登校・登校拒否を考える東京の会

「よこはま若者サポートステーション」のホームページでは、『就職を考えているものの、様々な課題により「一步」が踏み出せない若者とゆっくり、じっくり相談をしながら、自立へのステップを積み重ねるためのサポートを行う就労支援施設です。また、保護者の方の継続した相談や各種プログラムも開催しています。まずは、あなたの話を聞かせてください。それから一緒に考えていきましょう。働くまでに困ったら、よこはま若者サポートステーションへお越してください。』と書いてあります。

卒業3年後の離職率は、中学7割、高校5割、大学3割と言われる時代、離職して再就職することができるかが、格差社会の中でフリーターなど、所得の少ない生活を強いられるしまうのか問われる時代になっています。格差社会を政治問題として解決するとともに、若者に冷たい現在の就職状況をなんとか、変えたいという取り組みの一つが政府と自治体が出資している「よこはま若者サポートステーション」（特定非営利活動法人）の取り組みです。

総合相談者の62.3%が不登校・ひきこもり経験者及び身体・知的・精神疾患を有する若者です。平成18年12月に開所、現在対象若者15才から34才で利用率が全国1位（07年度利用者、本人9681名、保護者1032人）になっています。

特徴的な取り組みとしては、教育授業として、

- 1、アートワーク（例、直線・曲線を呼吸を整えて描く、文様を個々の色彩感覚で彩色）
- 2、ボイスワーク（例、話すことが苦手な青年が、大きな声ではっきりとだせるように）
- 3、学びなおし（国語・算数<実務的算数> 例、四則計算から個別指導で）
- 4、体力作り（例、心と体をほぐそう、簡単ストレッチ）
- 5、パワーポイント講座（パワーポイントで遊んでみよう）
- 6、コミュニケーション・ワーク（例、前向きになるためのメンタル・トレーニング）

そのほか、学齢期事業、協働事業・ワークキャンプ、利用者主体型自主講演会、利用者主体型自主企画、保護者事業（保護者セミナー・保護者サロン）など様々な取り組みがされています。

不登校・ひきこもり経験者には、個々に応じた就職のための回復講座、再就職で精神的に傷ついてしまった若者たちには、内容に応じた回復手だてをしているようです。

会社側に、若者の就職サポートをするように要請。若者は即戦力を企業が求めているという事で自信を無くしています。ゆえに、若者の能力を高める取り組みも。

**質問に答えて** どの県からでも、京都の人が利用した例も。利用年数の制限はありません。利用料は無料です。東京には、足立・立川・三鷹・新宿にサポートステーションがあります。ホームページを見てください。総合相談と保護者事業は共通です。 文責 亀山茂（工芸定）